



ゲンちゃんと学ぼう 徳島の歴史舞台

しづのまるやまこふん

渋野丸山古墳

古墳時代

とくしまししづのちょう
[徳島市渋野町]

B.C.		5世紀		10世紀		15世紀		20世紀
------	--	-----	--	------	--	------	--	------

学習する時代

渋野丸山古墳は全長118mの前方後円墳です。
徳島県内第1位の規模を誇る古墳です。
どんな人物が葬られたのでしょうか。みんなで
考えてみよう。

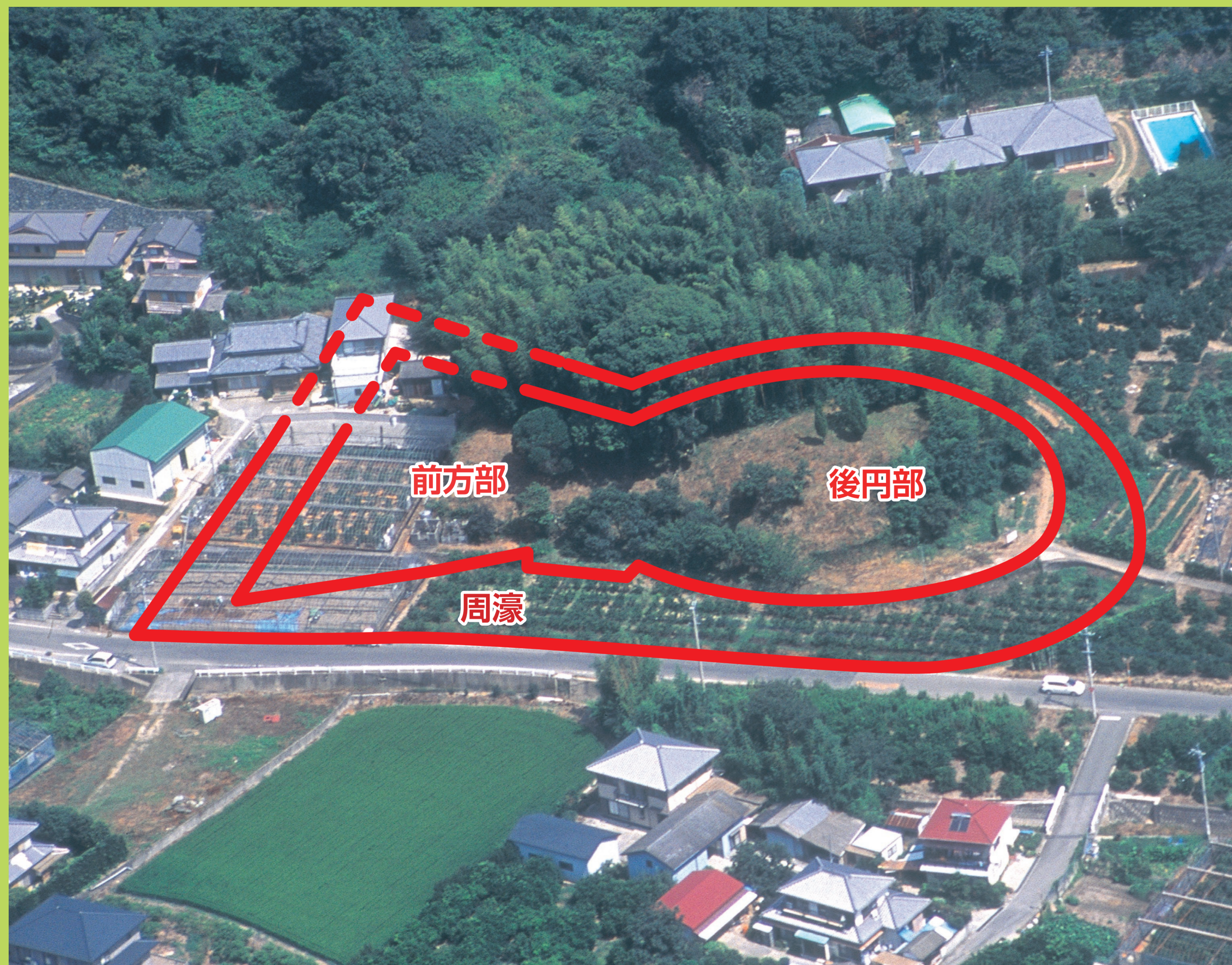


写真1 渋野丸山古墳の航空写真

写真2 出土した円筒埴輪 えんとうはにわ

学習のねらい

- (1) 私たちの住む徳島にも近畿地方と同じように地域を統治した権力者が存在していたことを気づかせる。
- (2) 渋野古墳群が数基の古墳で構成されている意味について考えさせる。
- (3) 近畿地方の古墳との比較や、出土した遺物から、古墳に葬られた人物を想像させる。

解説

(1) 渋野丸山古墳について

古墳時代とは、3世紀半ばから7世紀までの約400年間を指し、北海道と沖縄を除く日本列島各地に墳丘をもった墓がつくられた時代です。渋野丸山古墳は古墳時代中期、およそ5世紀半ばにつくられた全長118mの前方後円墳しゅちようです。この規模は、徳島県最大で、かつ100mをこえる唯一の古墳です。古墳は権力者の墓としてつくられました。このような権力者を「首長」とよんでいます。古墳は、集落に近接した場所や、集落を見下ろすことのできる丘陵上につくられることが多いです。渋野丸山古墳は北・西・南の三方を山に囲まれた地域にありますが、周辺には広い範囲にわたって同じ時期の前方後円墳が見られません。このことから、渋野丸山古墳に葬られた人物は、勝浦川の下流域一帯を統治する有力な首長であったと考えられます。

(2) 渋野古墳群の特徴

多くの場合、古墳は単独で存在するのではなく数基の形や大きさの異なる古墳が群を成しています。渋野古墳群は前方後円墳である丸山古墳を中心として、天王の森古墳てんのう もり（円墳、直径20m）、新宮塚古墳しんぐうづか（円墳、直径20m）、マンジョ塚2号墳（円墳、直径20m）、等の数基の古墳で構成されています。出土した遺物などから丸山古墳と同じ古墳時代中期につくられたと考えられます。丸山古墳と他の円墳との規模の違いは、葬られた人の権力の違いを示すものとみられ、古墳時代の社会には複雑な身分関係が存在していたことがうかがえます。また、古墳を築造できた者は、ごく一部の権力者とその家族で、多くの人々は墳丘のない簡易な墓に埋葬されたと考えられます。1953年（昭和28年）に周辺にある四基の古墳とともに「渋野の古墳」として徳島県史跡に指定され、さらに、2009年（平成21年）には丸山古墳が国の史跡に指定されました。

(3) 渋野丸山古墳の歴史的な意義

渋野丸山古墳の発掘調査からは、多くのことが明らかとなりました。墳丘は3段に形成され斜面には石が葺かれており、墳丘の周りには周濠しゅうこうという幅5～10m程の濠がめぐっていることがわかりました。また埴輪つぼや土器が出土しています。埴輪には壺をのせる台を模した円筒埴輪、台に壺をのせた朝顔形埴輪、儀式や祭りのときに貴人にかざす傘を模した蓋形埴輪、盾形埴輪の可能性のある破片があります。土器は土師器とよばれる野焼きの土器で壺や食べ物を盛り付ける高杯の形をしています。渋野丸山古墳にみられるこれらの特徴は、倭国の大王墓である大仙陵古墳おほせんりょうこふんや萱田御廟山古墳（大阪府）と共通しています。このことから渋野丸山古墳に葬られた人物は近畿地方の勢力と関係をもち、当時の阿波地域を代表する権力者であると想定されるでしょう。

■図1 渋野古墳群の位置



- ① 渋野丸山古墳
- ② 渋野天王の森古墳
- ③ 新宮塚古墳
- ④ マンジョ塚古墳
- ⑤ マンジョ塚2号墳
- ⑥ 花折塚

■図2 大きさの比較

